

「卒業留学生のネットワーク構築のための交流会」より

教育学部・大学院教育発達科学研究科を卒業した留学生は、2014年3月現在、130名を超えます。これらの国内外で活躍する卒業留学生のネットワークを構築しようと、2014年3月11日、卒業生6名を招き、教員など大学関係者・在籍している留学生、日本人大学院生も参加して交流会が開催されました。6名中、5名は本学部・研究科の卒業留学生です。

交流会では、各卒業生から、留学で学んだことや現在の仕事内容などが報告され、全体での意見交換も行われました。

卒業留学生のネットワーク構築のための交流会

- 日時: 3月11日(火)10時～17時
- 会場: 教育学部大会議室

<プログラム>

- ・卒業留学生による発表・質疑応答
- ・卒業留学生ネットワーク構築に関するディスカッション

<発表者>

- ・胡 建華 氏(中国 南京師範大学教育科学学院 教授)
- ・施 文華 氏(台湾 国立高雄餐旅大学日本語学科 学部長)
- ・朴 賢晶 氏(韓国 愛知文教女子短期大学 教授)
- ・侯 旋 氏(中国 昆山朝日教育培训中心 日本語講師)
- ・劉 恵卿 氏(台湾 城邦文化事業股份有限公司尖端出版 主任)
- ・韓 龍震 氏(韓国 高麗大学校師範大学 学長)

<教員側出席者>

- ・大谷尚 ・寺田盛紀 ・西野節男 ・服部美奈 ・中島美奈子



1. 交流会の概要

卒業留学生による発表・質疑応答



6人から、留学時代の学習・研究や生活体験、卒業後のキャリア、留学で得たことを現在どのように生かしているかなどが発表されました。ここでは、共通の体験が多い「留学生活で困ったこと」「どう乗り越えたか」について紹介します。留学生受け入れの改善点についても提案され、これらは、後半のディスカッションのテーマ「大学における留学生支援について」の意見交換につながりました。

留学生活で困ったこととして、多くの方が、経済的不安、言語の壁、住居探しの苦勞を挙げました。奨学金をもらっていても、学費と生活費をカバーしきれず、ほとんどの学生がアルバイトで補填していたそうです。言葉については、大学院で専門用語がわからないという壁にぶつかります。そんな中、学部から入学した朴氏(学部で4年間)や劉氏(研究生として1年間)は、学部の多様な授業を受けた上で専門的な授業に入ったことがよかったといえます。

また、朴氏は、「歴史問題、領土問題などが出るたびに、日本で韓国人として生きることを自分なりに納得させることが大変な課題だった」ともいいます。他の国で生きるためにどうすればいいか、自分なりに納得していく過程で、横にいてサポートしてくれるチューターの存在は大きかったとのことでした。

韓氏は留学生活体験を「留学というより遊学」と表現され、「大学だけでなく、いろいろなところを巡って多くの場で学ぶことができた」と発言されました。ホームステイやチューターの支援、多くの日本人や文化との出会いによって、日本に慣れていったというのは、全員共通の対策法のようなものでした。発表者でただ一人の国際開発研究科博士課程修了の施氏からも、名古屋大学国際教育交流センターが主催するイベントやレクチャーに参加することで、研究力や語学力が向上し、生活が楽しくなったと報告がありました。

卒業留学生ネットワーク構築に関するディスカッション

発表者に大学関係者および在籍している留学生も加わり、以下の3点について活発にディスカッションを行いました。

① 各発表について

前半の発表を糸口に、各国の留学生動向、就職状況、就職支援などについて情報交換を行いました。韓国の在学留学生からは、「韓国に戻って就職しようとするとき、韓国の大学を出た人たちと競争することになる。日本の大学を出た学生としての競争力は何か」という質問がありました。発表者の方々の答えは、やはり「言語力」。それは台湾でも中国でも同じです。また、各国の大学では、英語の授業の比率が高くなっているため、日本に留学中でも英語の能力を高めることは必要という発言もありました。本学部でも英語での授業を増やす取り組みを始めたところで、これを留学生獲得の際にアピールするとよいとの意見も出ました。

② 大学における留学生支援について

それぞれの卒業留学生から、以下のような意見・要望が出ました。前半の発表でも触れられた日本での生活・学習面での苦労のほか、留学生にとって母国に戻った後の就職の不安は大きいようです。日本の大学で仕事に生かせる力をいかにつけるか、その対策として大学側への要望も出されました。

<生活面の支援>

- ・経済面の支援、授業料減免
- ・寮など住居の支援
- ・チューター制度の充実

<キャリア教育の充実>

- ・インターンシップの強化(母国に戻り就職活動をする際に、インターンシップの経験があることは強みとなるため)
- ・英語での授業など英語の語学力を伸ばす機会の提供(就職の際、英語の語学力が求められているため)

<交流促進>

- ・日本人とふれあう機会の創造と提供

③ 今後の交流と卒業生のネットワークづくりについて

研究科国際交流委員会の寺田盛紀教授から卒業留学生へ、「留学生の名簿づくりを始めたところなので、名簿づくりと、現地での同窓会の開催などにご協力ください。必要であれば、教育学部から代表を派遣します」との依頼があり、ネットワーク構築に向けた具体的な提案がなされました。

Column

総合的な支援窓口
留学生相談室

研究科には留学生相談室が設置されており、留学生の支援を行っています。具体的には、在籍留学生の窓口となり、学業および生活面における相談・情報提供を行うほか、チューター制度や大学院生による日本語添削などを運営しています。

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/exchange/consultation.html>

